## 44. 聖パウロとはどの ような人でしたか?

パウロの回心はその生涯の鍵の一つです。正にその時から、教会がキリストの体であるという点を理解し始めたからです。

## 2016/09/28

パウロはヘブライ人のユダヤ教徒で、パウロとはサウロのギリシャ名です。現在のトルコ南東に位置するキリキア州のタルソス出身のパウロは西暦1世紀の人物です。パウロは

キリストと同時代に生きていましたが、実際に出遭ったことはなかったようです。

タルソのサウロは、1世紀のユダヤ 教の一派であるファイリサイ派の教 育を受けました。サウロ自身が書い た書簡の1つであるガラテアの教会 への手紙によると、サウロのユダヤ 教に対する情熱が新興グループであ るキリスト教徒への迫害に向かわせ たようです(ガラテア1.13-14)。サ ウロはダマスコ途上でイエスに出遭 うまで、キリスト教徒はユダヤ教の 純粋さに反するものと考えていまし た。その時イエスは、他の使徒たち の場合と同じく、自らをサウロに示 し、付き従うよう招きました。サウ 口はその呼びかけに応えて洗礼を受 け、牛涯をかけてイエス・キリスト の福音を告げ知らせることになりま す(使徒言行録26,4-18)。

パウロの回心はその生涯の鍵の一つ です。正にその時から、教会がキリ ストの体であるという点を理解し始 めたからです。すなわち、一人のキ リスト者を迫害することはイエスを 迫害することであると悟ったので す。同じメッセージの中で、イエス は自らを「復活した者」として示し ました。イエスの足跡を歩むすべて の人が死後迎える状態です。さらに イエスは自らを「主」(ギリシャ語 では「キリエ」)として示しまし た。この言葉はギリシャ語聖書にお いて、神ご自身を表すために使われ ます。これによって、イエスは自ら が神であることを明らかにしたので す。こうして、パウロは宣べ伝える べき福音を、イエス自身を宣べ伝え ることとして受け取ったと言うこと ができます。ただしその後、恩恵の 助けと、また自らの考察を通して、 福音に含まれている主な真理を最初 に受けた光から引き出して行きまし た。それは神の神秘をより深く理解

するためであり、またキリストに対する信仰をもつ人々と持たない人々の状態を示し、各々が取るべき行動を導き出すためでした。

回心したときのパウロは、非常に具 体的な使命が与えられた預言者の姿 で描かれています。新約聖書の書で ある使徒言行録によると、パウロに 洗礼を授けるはずのアナニアに主は こう言われました。「行け。あの者 は、異邦人や王たち、またイスラエ ルの子らにわたしの名を伝えるため に、私が選んだ器である。わたしの 名のためにどんなに苦しまなくては ならないかを、わたしは彼に示そ う」(使徒言行9.15-16)。主はパ ウロ自身にも言われました。「わた しはあなたが迫害しているイエスで ある。起き上がれ。自分の足で立 て。わたしがあなたに現われたの は、あなたがわたしを見たこと、そ してこれからわたしが示そうとする ことについて、あなたを奉仕者、ま

た証人にするためである。わたしは、あなたをこの民と異邦人の中す。ら救い出し、彼らのもとに遣われて、闇かられは、彼らの巨を開いて、闇立なの支配から神に立って、とされた人々と共に恵みでありにあずかるようになるためである」(使徒言行録26,15-18)。

を立ち去った後、福音宣教が完全に 終わらなかった場合や、訪問した共 同体から送られてきた質問に答える 場合にパウロは手紙を書き始め、そ れは格別の畏敬をもって各教会です ぐに受け入れられました。パウロは 共同体全体に宛てた手紙と個人宛て の手紙を書いています。新約聖書に はパウロの説教を出所とする14の 手紙があります、それらはローマ、 2 通のコリント、ガラテア、エフェ ソ、フィリピ、コロサイ、2通のテ サロニケ、2通のテモテ、テトス、 フィレモン、ヘブライ人への手紙で す。これらの手紙の書かれた時期を 確認することは容易ではありません が、多くの手紙は西暦 5 0 年から 6 0年にかけて書かれたと言えます。

パウロが宣べ伝えた教えの中心は、 人間の救いのために行動したイエ ス・キリストの姿です。御父と聖霊 との緊密な一致の内にキリストが 行った人間の罪の贖いは、人間のお

かれていた状態にも、また、人間と 神との関係においても、転換点を刻 むことになります。贖い以前は人間 は罪の道を歩み、ますます神から遠 ざかっていました。しかし今や復活 し死と罪を克服し、信じて洗礼を受 けた人たちと一つになった主(キリ エ)がおられます。この意味で、パ ウロの神学を理解するための鍵は同 心 (メタノイア) であると言えるで しょう。すなわち、無知から信仰へ の、モーセの律法からキリストの掟 への、罪から恩恵への同心なので す。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesu-shitsumon-44/ (2025/12/10)